

第1学年 生活科の実践

1 単元名 「きらきらかぞく 大きくせん」

2 単元目標

家族のことや自分でできることなどについて考え、家族の大切さや自分が家族によって支えられていることなどに気付き、家庭生活においてそれぞれの果たしている仕事や役割の価値、家族の温かさ、家族一人ひとりの良さなどが分かる。そして、家族の一員として自分の役割を積極的に果たすことが進んでできるようにする。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

(1) 単元と指導

本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができるようにする。」に基づいて設定した。

児童にとって家庭は、自分を支え、育ててくれる家族がいるところである。そこでは、家族一人ひとりが家庭の内外の仕事や役割を果たすとともに、思いやりや愛情によって支え合い、家庭生活が営まれている。しかし、児童にとってあまりにも身近であるため、その大切さに思い至らないことが多い。また、共働きの家庭が増えたこと・家電等が充実してきたこと・児童自身が塾や習い事で忙しくなったことにより、家族の団欒の時間や、家事をする時間が少なくなっている。

本単元は、自分たちで調べ、考え、判断し、体験する活動を数多く設定できる素材であると思われる。自分の生活を調べ振り返る・家族の生活を調べる・自分が決めた家事を実際にやってみる・家族からの感想を聞く・友だちと感想を交流するなどの活動を通して、「自分にもできた」「家族のみんなが喜んでくれた」「これからも続けていこう」「もっとできることを増やしていこう。」という自信と意欲を持つことができる。そして、家庭生活においてそれぞれの果たしている仕事や役割の価値・家庭の温かさ・家族一人ひとりのよさなどが分かり、自分たちの生活をよりよくしていくための積極的な生活態度を育てていくことになるのではないかと考える。

生活科では、特に子どもの「思い」や「願い」を大切にしながら、具体的な活動や直接体験を中心とした学習活動を工夫していき、子どもが主体的に学習や生活に取り組めるようにしていきたいと考えている。活動の場が家庭が中心になるので、事前に保護者に活動の目的を知らせ、家族の協力が得られるようにしていきたい。

本単元では、指導計画にあるような具体的な活動や直接体験となる活動を取り入れることにした。

ひびき合いについては、自分の話を聞いて欲しいという児童一人ひとりの思いを大切にしながら、話し合いの基礎である、「聞き方」「伝え方」を生活科でも身につけていきたいと考えている。そこで、一人ひとりが自分の思いをもつ・グループの友だちに伝える・学級の全体に伝えるというような段階を踏みながらひびき合いを広げていきたい。自信をもって活動できる話し合いの手順も具体的に示していく必要があると考えている。また、話し合いの学習問題については、「ひとつに絞ること」と「具体的で分かりやすいもの」を設定していきたい。また、1年では今回の改訂で新設された内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」の内容を受け、交流の場を多く設定していきたい。そこでは、言葉を中心にした伝え合う活動を活発に行えるようにするだけでなく、表情やしぐさ、態度などで伝えることも大切にしていきたい。

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
家族の生活に関心をもち、進んで家族と関り、生活を振り返ったり、尋ねたり、実際に家事をしたりしようとしている。	家庭の仕事や自分にできることについて考え、実際に取り組むことができる。	家族の一員として、家族の大切さや自分の役割について気付くとともに、自分の生活は、家族に支えられていることに気付いている。

4 単元指導計画 (全10時間扱い)

学 習 の 流 れ	評価の観点・評価方法・支援
<p>わたしの一日を振り返ろう。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べた「わたしの一日」を自分だけのこと、家族のことに色分けする。 ○ 結果を見て、気付いたこと・思ったことを交流する。 <p>かぞくの一日を見てみよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ かぞくの一日の結果を見て気付いたことや思ったことを交流する。 ○ 家族がきらきらするために自分がやってみたいことを考え決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家事 ・ 自分のことは自分です ・ 家族の団欒を考える。 <p>きらきらかぞく大きくせん②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がやったことを友だちに話す。 ○ もっと家族がきらきらするためにはどうしたら良いか考える。(本時) ○ 作戦を成功させるための方法を考える。 (家庭での、活動) ※1週間～2週間 <p>家族きらきら大作戦を発表しよう④</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践したことを伝える方法を考え準備練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にやってみせよう。 ・ 絵にしよう。 ・ 家族の感想を紹介しよう。 ○ 発表会開く。 ○ 家族へ手紙を書く。 	<p><関> 自分の一日を調べることに興味を持ち進んで取り組んでいる。 (行動・発言・シート)</p> <p><思・表> 調べたことを、色分けしたり、友だちと考えを交流することができる。 (発言・ワークシート)</p> <p><気> 自分だけのことをやっていることに気づく。 (発言・ワークシート)</p> <p><関> 家族の一日を調べることに興味を持ち進んで取り組んでいる。(行動・発言・シート)</p> <p><思・表> 調べた結果を見て、友だちと考えを交流することができる。(発言・ワークシート)</p> <p><気> 家族のための仕事をやっている人が偏っている家庭が多いことに気づく。 (発言・ワークシート)</p> <p><思・表> 取り組んだことを、話・絵・動作などで伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者へ活動の目的と内容を伝え、協力を得る。 <p><関> 活動をして分かったことや、思ったことを分かり易く伝えるために、準備をしようとしている。 (行動・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し合いの中で、自分の思いが活かされるような表現方法になるように助言する。 ● 自分の気持ちを交えながら話している子を賞賛し、聞き手に伝わる話し方を助言する。 <p><思・表> 活動の工夫や、思ったこと等を分かり易く発表することができる。(行動・発表)</p> <p><関> 発表会に積極的に参加しようとしている。 (行動・発言)</p>

	<p><気> 家族がみんなきらきらするためには、家族のための仕事を進んで行いことや、家族みんなの時間を大切にすることに気づいている。</p> <p style="text-align: center;">(ワークシート・発表・手紙)</p> <p><関> これからも、家族みんながきらきらになれるように進んで行動していこうとしている。</p>
--	---

5 本時について (5 / 10 時間)

(1) 本時目標

一回目の「きらきらかぞく 大きくせん」でやったことや、思ったことを交流することにより、家族のみんながよりきらきらするための、新しい作戦を考えるようとする意欲をもつことができる。

(2) 本時展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 評 価
<p>1 一人ひとりが取り組んだことや、取り組んだことで、気づいてことや、思ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂の掃除をやった。 ・自分の上履きを洗った。 ・自分は満足をしている。 ・お母さんが喜んだ。 ・もっと上手になりたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の仕方を具体的に知らせる。 ・グループの中で交流させる。 ・ホワイトボード・赤、青、黄の丸いカードを用意する。 満足 赤 ・ 不満足 青で色分けをさせる。
<p>2 グループの中で交流した結果をもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足が多いのはなぜだろう。 家族が喜んでくれた。 やって楽しかった。 ・不満足なのはなぜだろう。 もっとやりたい。 あまり上手にできなかった。 ・もっときらきらにしたい。 ・いろいろな作戦があるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で話し合う。 ・ホワイトボードを掲示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【表】 分かり易く伝える工夫をすることができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で話し合う前に、一人ひとりに考えをもたせる。 ・発言したことを分かり易く、板書で整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【気】 自分がやったことで、家族が喜んでくれることに気づくことができる。</p> </div>
<p>3 かぞくが もっときらきらかぞくになるための作戦を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目と同じことを、もっと上手にできるようにする。 ・やることをもっと増やす。 ・お母さんの技をよく見て真似する。 ・家族みんなで楽しめることをやる。 ・アドバイスをもらう。 ・練習をする。 ・ずっと続けられるようにする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【思・表】 家族をもっと喜ばせることができることや方法を考えることができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で話し合う。 ・理由を言わせることで、活動の必要性をはっきり捉えられるようにする。 ・板書で整理することにより、話し合いの内容が見えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【関・意・態】 「もっと」という思いを持って、作戦を考えている。</p> </div>

<p>4 自分の作戦を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度同じことを、上手にやる。 ・ほかの事をやる。 	<p>時間によって次の時間におこなう。</p>
---	-------------------------

本時の評価基準及び支援

	A	B	C (支援)
関心・意欲・態度	家族のためになることに関心をもち、進んで家族と関り、生活を振り返ったり、尋ねたり、実際に家事をしたりしようとしている。	家族のためになることに関心をもち、家族と関り、活動を振り返り、実際に家事をしたりしようとしている。	話し合いの中で、自分の興味や関心につながるものを一緒にさがす。
思考・表現	友だちの発表や、家族からの言葉を読んだり、話し合いをしたりすることにより、家族みんなが、喜ぶことを発見し、より高い目標の活動を考え計画を立てることができる。	友だちの発表や、家族の言葉を読んだりすることから、家庭の仕事や自分にできることについて考え、次の活動を考え計画を立てることができる。	新しい仕事や、チャレンジすることに目が向かない児童には、不安な部分を聞いてあげる。 同じことをやっても良いことを話す。
気付き	家族によって違うが、家族のためになることの活動には、家族のための仕事だけでなく、家族の団欒（楽しみ）もあることに気付いている。	家族の一員として、家族の大切さや自分の役割について気付くとともに、自分の生活は、家族に支えられていることに気付いている。	自分と友だちとの違いや、同じところに注意しながら聞かせる。 家族からの言葉に着目させる。

6 実践を終えて

<本時までの流れ> 単元名「きらきらかぞく 大きくせん」

わたしの一日

①

自分のことが多いなあ。

自分のことしか考えていなかったのかな。

赤のシール（家族のこと）を多くしたいな。

お母さんが、赤シールが多いと思うよ。 本当？

調べてみたいなあ。

かぞくの日

②

やっぱり、お母さんが多かった。

うちは、みんな同じくらい◎があるよ。

みんなが同じくらい◎になるようにしたいなあ。

お母さんが喜ぶようにしたいなあ。

みんなが、喜ぶようにしたいなあ。 みんなが楽しめることを増やす。

家族みんなが喜ぶようにするにはどうしたらいいだろう。

家族のためのことをやろう。

きらきらかぞく大きくせん

話し合いをしながら「きらきら」についてのとらえを確認した。

自分が考えたことを実践してみた。
家族からの感想を書いてもらった。

家族みんなが喜ぶことってなんだろう。

仕事をやる。食器を片づける。 おふろを洗う。洗濯物をたたむ。

自分のことは自分でやる。 うわばきを洗う。洋服をたたむ。

みんなが楽しめることを増やす。

家族で出かける。みんなで食事をする。

上記の実践結果をもとに、本時の課題を設定。

「もっと家族みんながよろこべるようにするには？」(本時)

<本時以降の流れ>

友だちが考えた作戦にはどんなものがあるんだろう。

仕事を増やす。

もっと喜ぶ他の仕事をする。

続ける。

やってきた仕事の名人になる。

(冬休みに作戦の実行)

作戦の成果はどうだったんだろう。

成果を伝え合いたい。

どのように伝えたらいいのか。

・家の人の言葉(証言)の紹介

・写真などを見せる。

・実際に見せる。

・実際に見せるのは、分かり易いな。

発表会を開こう。

・いろいろな伝え方があるな。

・きらきら家族になるために他のことをすればよかった。

・続けることは難しい。

・家族のための仕事はたくさんある。

・ありがたいの気持ちももてた。

・役に立てて嬉しかった。

・他の仕事もやってみよう。

○ 児童一人ひとりに、めあて(何をするのか。何のために行っているのか)をしっかりとらせる。

このことにより、どのような考え方からスタートしても、同じゴールに向かうことができる。

指導者が、どのような「指導」「発問」「支援」をしたらよいのかが見えてくる。

児童の思考の流れを生かした展開を考えることができる。

○ 友だちと考えを交流することの良さに気づかせる。

このことにより、児童にも指導者にも授業の(活動)の意義が見えてくる。

○ 評価をすることにより、児童の実態(考え)を把握する。

児童の思考の流れを生かした展開を考えることができる。

上記のことを念頭に置き単元を作ってきた。

<成果と課題>

問題（課題）について

上記の単元の流れの中の網掛けの部分の児童の思いがつながり、本時の課題が設定された。「もっと、きらきらかぞくになるためにはどうしたらいいか。」という課題の根底には、『家族に喜んでもらいたい。』という児童の願いがある。その願いを達成させるために、ほとんどの児童が、「家族のための仕事」を行うことをあげていたが、3人の児童が「家族の団らん」1人の児童が「自分が自分のことを頑張る」ことをあげていた。また、課題解決の方法として「継続する」「もっと上手になる」「仕事を増やす」をあげた。「仕事」・「団らん」というように、活動の内容は広がってしまったが、単元の最後まで「もっと、きらきらかぞくになるためにはどうしたらいいか」という課題に一人ひとりの児童が向かって活動できたことは、子どもたちにとって分かり易い、追究しやすい課題だったのではないかと思える。

ひびき合いについて

○話し合いの場でのひびき合い

- ・ 学級全体では、「何が課題なのか」「何を話し合っているのか」というようなことが見えるような板書を心がけた。
- ・ まず、自分なりの考えをもたせてから学級全体での話し合いをさせた。
- ・ 児童の思いを大切にしたい課題の設定を心がけた。
- ・ グループの話し合いでは、児童だけで話し合いが進められるように、進行の仕方を書いた紙を準備するなどの配慮をした。

○発表の場でのひびき合い

- ・ 文章で ・ 話し言葉で ・ 写真や絵で ・ 実演で

実演をしてみせる友だちの様子を見て、「わあー」「上手。わたしもやってみようかな。」という声が聞かれた。友だちの実演を見るだけでなく、全員が体験してみることもよりひびき合いが見られたのではないかと考える。

友だちの考えを聞いたり、実演を見たりすることにより、「いろいろな家庭があること」「たくさんの方があること」「どこの家でも、喜んでもらえたこと」「きらきら家族のために、色々な方法があること」などの、新しい発見や驚きがあった。多くの児童が単元の目標に迫ることができた。「自分が習い事を頑張る」といっていた児童は、発表の場では、ぎょうざ作りを発表した。この児童にとってもひびき合う場面があり、考え方が高まったのだろうと思う。

- ・ 児童と共に単元を作ること。(児童の思いを生かす)・切実な問題を設定し、追求していくことが、ひびき合いのある授業づくりにつながるといえることが見えてきた。
- ・ ひびき合いをより豊かに高めるためにはどうしたらよいかこれがこれからの課題になってくるのではないかと考える。課題解決のひとつは、基盤となる「聞く・話す」の指導に力を入れることが上げられるだろう。同時に、教育活動のあらゆる場面で、「児童と共に・切実な問題」にした指導を心掛けることではないかと考える。

低学年でも、もっと豊かなひびき合いができるようになるのではないかと考える。